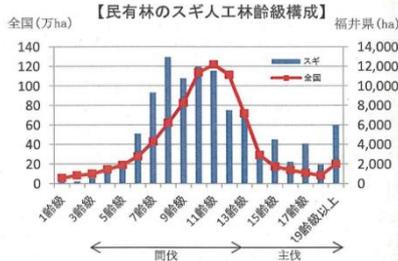


# 低コスト再造林に向けた育林体系の確立（R5～9年度）

## 現状

○県内の12万haの人工林は充実期を迎え、本格的に利用できる段階となっている。

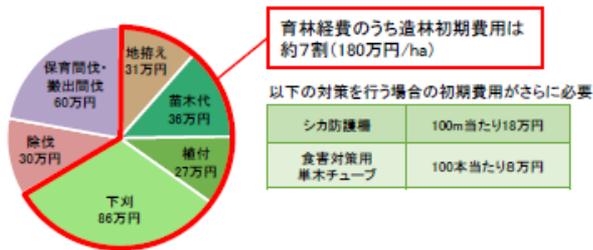


▲民有林のスギ人工林年齢級構成  
森づくり課調べ（H29.3.31現在）

○「木を伐り使い、植えて育てる」という森林資源の循環利用を進めていくためには、**着実に再造林を実施する必要がある。**

○再造林経費の中で、**造林初期経費が全体の約7割を占めている。**

○森林所有者の再造林意欲を向上させていくためには、**主伐による一定の利益が確保されるよう、再造林の低コスト化が必要不可欠である。**



▲再造林経費の現状(林野庁)



**「造林経費を縮減した再造林・保育の低コスト化」が望まれる。**

## 課題

1. 低密度植栽による育林体系の確立

2. 初期保育の省力化



▲低密度植栽の状況(1,000本/ha植栽)



▲大苗による植栽

## 研究内容

1. 福井県に**適応した低密度植栽の確立**

・低密度植栽地における生育調査、分析

2. 造林初期経費を**縮減する保育施業の確立**

・植栽密度別および大苗植栽による下刈り経費の検証  
・大苗植栽による冬期被害および獣害被害軽減の検証

## 目標および期待される効果

○低コスト再造林の確立

○森林所有者や造林事業者の**労力の軽減**

○森林資源の循環利用の**拡大**